

2022年4月期 上半期

決算説明会資料

2021年12月 株式会社 伊藤園



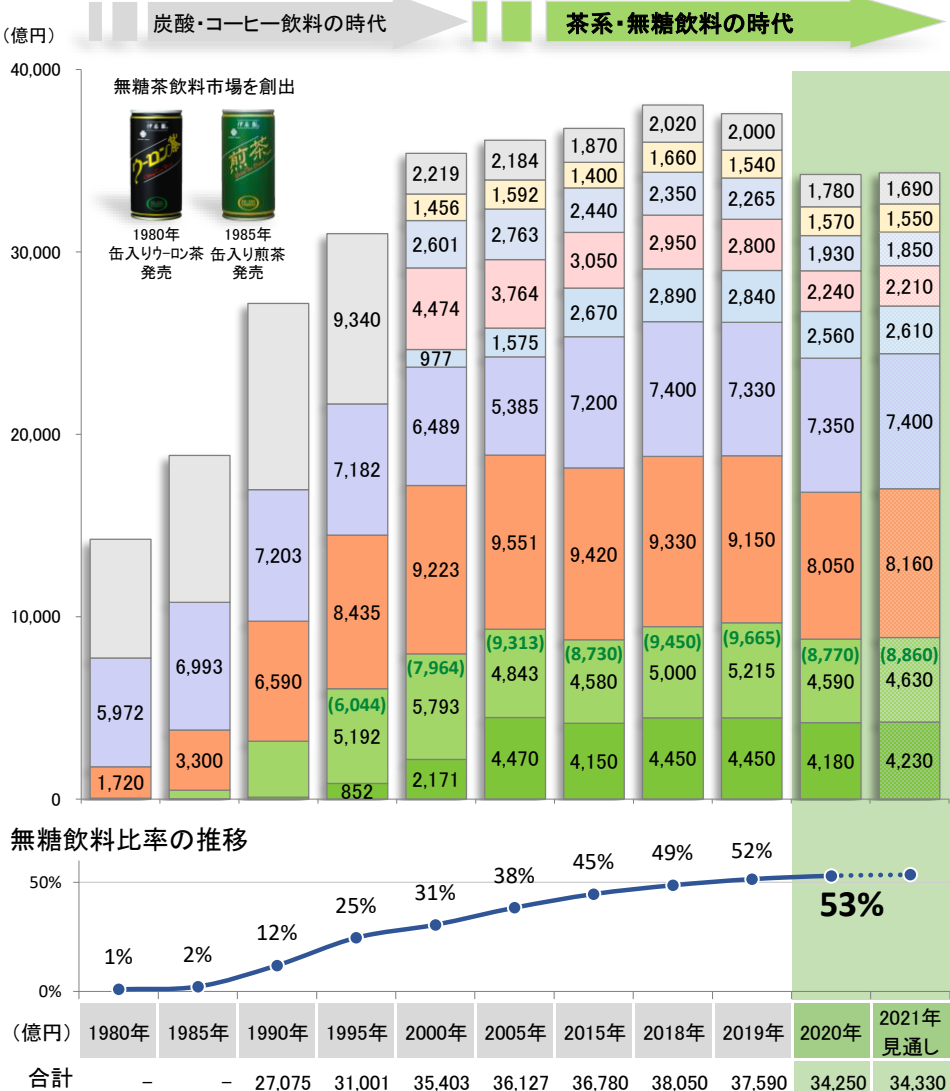
自然が好きです。

1. 国内飲料市場と当社の動向	…P.4
2. 2022年4月期 上半期実績 新型コロナウイルス感染症等の影響	…P.6
3. 2022年4月期 通期予測	…P.9
4. マーケティング・事業戦略	…P.11
5. 参考資料	…P.23

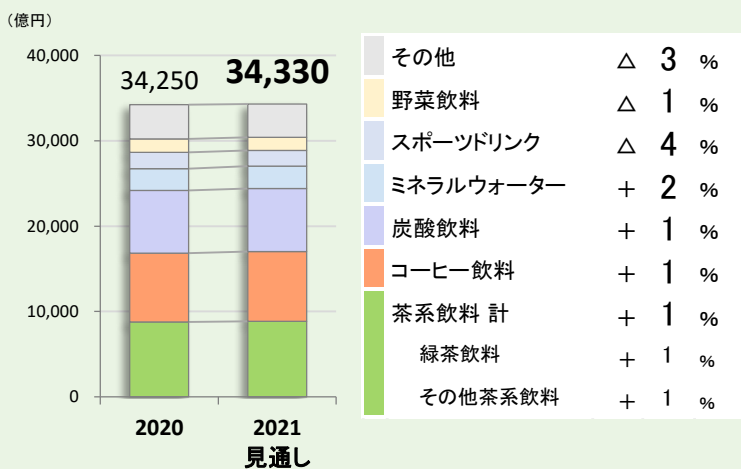
国内飲料市場と当社業績

国内飲料市場の動向

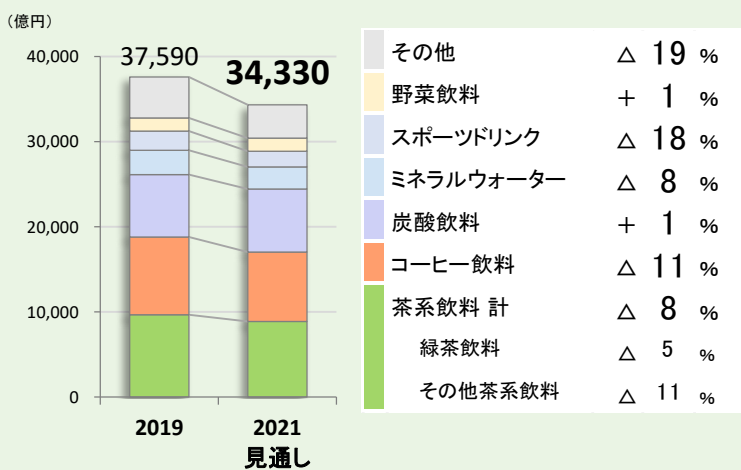
飲料市場の推移(暦年・金額ベース)



2021年(1月-12月) 前年比 +0%(見通し)



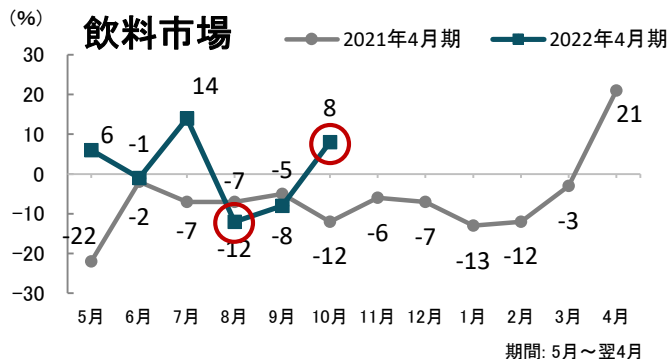
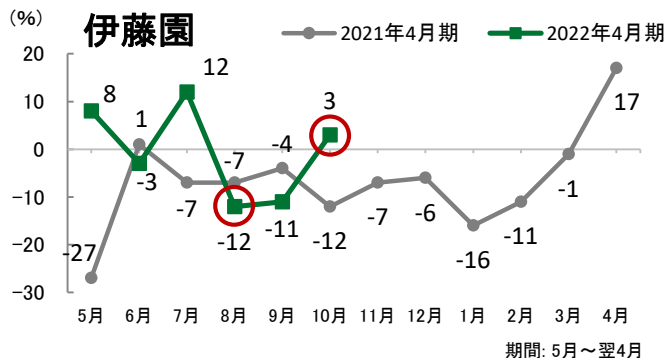
参考: 2021年(1月-12月) 2019年比 △9%(見通し)



無糖飲料の構成比は伸長を続ける。国内飲料のうち 50%以上 が無糖飲料。

国内飲料市場と当社の動向

月次販売数量動向（対前年増減率）

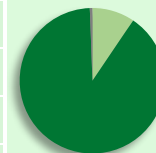


飲料市場環境のトピックス

- 2021年 5月 緊急事態宣言の再発出や期間延長
西日本を中心に早い梅雨入り
- 6月 一部地域を除き中旬に緊急事態宣言解除
- 7月 全国規模で早い梅雨明け
- 8月 異例の長雨となり記録的な雨量となる
- 9月 緊急事態宣言の延長、悪天候
- 10月 緊急事態宣言解除により家庭外需要増

伊藤園(単独) 2022年4月期 上半期 (2021年5月～10月)

	実績	増減率
売上高	1,906億円	+ 1 %
茶葉(リーフ)	169億円	+ 2 %
飲料(ドリンク)	1,720億円	+ 0 %
他	16億円	+ 33 %



構成比



茶葉 9% 飲料 90% 他 1%

(※) 収益認識基準適用前

(単位：万ケース)

カテゴリー別 飲料販売数量	2021年4月期			2022年4月期		
	実績	構成比	増減率	実績	構成比	増減率
飲料(ドリンク)	11,998	100 %	△ 9 %	11,845	100 %	△ 1 %
茶系飲料計	8,448	70 %	△ 10 %	8,405	71 %	△ 0 %
日本茶・健康茶	7,669	64 %	△ 9 %	7,827	66 %	+ 2 %
中国茶	650	5 %	△ 15 %	489	4 %	△ 25 %
紅茶	127	1 %	△ 35 %	88	1 %	△ 30 %
野菜飲料	1,761	15 %	△ 1 %	1,590	13 %	△ 10 %
コーヒー飲料	740	6 %	△ 11 %	805	7 %	+ 9 %
ミネラルウォーター	357	3 %	△ 21 %	359	3 %	+ 1 %
炭酸飲料	229	2 %	△ 15 %	232	2 %	+ 1 %
その他飲料	461	4 %	△ 16 %	452	4 %	△ 2 %

2022年4月期 上半期 無糖飲料比率 **75%以上**

2022年4月期 上半期実績

上半期 累計(2021年5月～10月)

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 実績			
		構成比		構成比	増減率	
連 結	売上高	236,585	100.0%	208,716	100.0%	(※)
	売上総利益	112,475	47.5%	82,469	39.5%	(※)
	販売手数料	40,348	17.1%	119	0.1%	(※)
	広告宣伝費	5,622	2.4%	5,577	2.7%	-0.8%
	運送費	7,397	3.1%	7,190	3.4%	-2.8%
	減価償却費	5,153	2.2%	4,688	2.2%	-9.0%
	販売費及び一般管理費	103,864	43.9%	71,612	34.3%	-31.1%
	営業利益	8,610	3.6%	10,856	5.2%	26.1%
	経常利益	8,317	3.5%	11,303	5.4%	35.9%
	特別損益	△ 229	-	823	-	-
	当期純利益	4,596	1.9%	7,752	3.7%	68.7%

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 実績			
		構成比		構成比	増減率	
単 独	売上高	189,522	100.0%	159,505	100.0%	(※)
	売上総利益	89,811	47.4%	59,787	37.5%	(※)
	営業利益	8,399	4.4%	9,149	5.7%	8.9%
	経常利益	9,377	4.9%	10,149	6.4%	8.2%

(単位:百万円)

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 実績	
		増減率		増減率
グ ル ー プ 会 社	上段:売上高 下段:営業利益			
	国内グループ	46,295	45,666	(※)
		△ 395	1,150	-
	タリーズ コーヒー	11,860	14,017	(※)
		△ 1,243	115	-
	チチャス	7,376	6,155	(※)
		434	440	1.4%
	海外グループ	17,761	20,069	13.0%
		1,050	885	-15.7%
	米国事業	14,904	17,224	15.6%
		438	330	-24.6%
		139,998千ドル	155,894千ドル	11.4%
		4,118千ドル	2,993千ドル	-27.3%
	その他 海外事業	2,857	2,844	-0.4%
		612	555	-9.3%
連結消去	△ 16,993	△ 16,524	-	
	△ 444	△ 329	-	

為替レート(米ドル) 106.46 110.49 (期中平均)

(※) 2022年4月期より収益認識基準を適用しています。
これにより大きな影響が生じる項目は増減率を記載しておりません。

2022年4月期 上半期実績(旧基準)

(参考) 旧基準ベースによる前年同期比較

上半期 累計(2021年5月～10月)

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 実績(旧基準)		増減率	
		構成比		構成比		
連 結	売上高	236,585	100.0%	241,041	100.0%	1.9%
	売上総利益	112,475	47.5%	114,828	47.6%	2.1%
	販売手数料	40,348	17.1%	41,214	17.1%	2.1%
	広告宣伝費	5,622	2.4%	5,577	2.3%	-0.8%
	運送費	7,397	3.1%	7,190	3.0%	-2.8%
	減価償却費	5,153	2.2%	4,688	1.9%	-9.0%
	販売費及び一般管理費	103,864	43.9%	104,090	43.2%	0.2%
	営業利益	8,610	3.6%	10,737	4.5%	24.7%
	経常利益	8,317	3.5%	11,184	4.6%	34.5%
	特別損益	△ 229	-	823	-	-
	当期純利益	4,596	1.9%	7,674	3.2%	67.0%

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 実績(旧基準)		増減率	
		構成比		構成比		
単 独	売上高	189,522	100.0%	190,614	100.0%	0.6%
	売上総利益	89,811	47.4%	90,930	47.7%	1.2%
	営業利益	8,399	4.4%	9,149	4.8%	8.9%
	経常利益	9,377	4.9%	10,149	5.3%	8.2%

(単位:百万円)

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 実績(旧基準)		増減率
グ ル ー プ 会 社	国内グループ	46,295	47,378	2.3%	
		△ 395	1,031	-	
	タリーズ コーヒー	11,860	13,898	17.2%	
		△ 1,243	△ 3	-	
	チチャス	7,376	6,999	-5.1%	
		434	440	1.4%	
	海外グループ	17,761	20,069	13.0%	
		1,050	885	-15.7%	
	米国事業		14,904	17,224	15.6%
			438	330	-24.6%
			139,998千ドル	155,894千ドル	11.4%
			4,118千ドル	2,993千ドル	-27.3%
	その他 海外事業	2,857	2,844	-0.4%	
		612	555	-9.3%	
	連結消去	△ 16,993	△ 17,021	-	
△ 444		△ 329	-		

為替レート(米ドル) 106.46 110.49 (期中平均)

売上高への主な影響 [第2四半期(2021年8月~10月)]

伊藤園(単独)

2021年8月~10月

Δ5.9%

参考:
前年 2020年8月~10月 **Δ7.4%**

(※)収益認識基準適用前 対前年増減率

- 最盛期の天候不順と緊急事態宣言により外出機会が低迷
- 在宅勤務定着によるコンビニエンスストア業態への影響が顕著に

コンビニエンスストア



Δ12%

自動販売機



Δ6%

EC



+7%

(※)収益認識基準適用前 対前年増減率

タリーズコーヒージャパン

2021年8月~10月

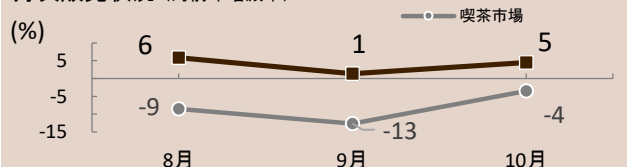
+4%

参考:
前年 2020年8月~10月 **Δ22%**

(※)収益認識基準適用前売上高/対前年増減率

- 8月~9月の緊急事態宣言により客足の戻りが弱まる
- 10月以降は、都心部を中心に販売状況や来客数は回復基調に

月次販売状況 (対前年増減率)



月末時点の状況	8月	9月	10月
休業店舗比率 (前年)	1% (18%)	1% (1%)	0% (1%)
時短店舗比率 (前年)	50% (67%)	51% (48%)	20% (34%)

(※)収益認識基準適用前 対前年増減率 (※)喫茶市場: 日本フードサービス協会

北米事業 : ITO EN (North America) INC.

2021年8月~10月

+13%

参考:
前年 2020年8月~10月 **+0%**

(※)現地通貨ベース

- ワクチン接種が進み、個人消費の回復が堅調
- 長期化する海上輸送コストの高騰が懸念

2022年4月期 通期予測(旧基準)

2022年4月期 通期予測 旧基準ベースによる前年同期比較

通期(2021年5月～2022年4月)

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 予測(旧基準)		増減率	
		構成比		構成比		
連 結	売上高	446,281	100.0%	464,400	100.0%	4.1%
	売上総利益	215,003	48.2%	223,600	48.1%	4.0%
	販売手数料	74,313	16.7%	76,626	16.5%	3.1%
	広告宣伝費	9,808	2.2%	10,579	2.3%	7.9%
	運送費	13,833	3.1%	13,601	2.9%	-1.7%
	減価償却費	10,207	2.3%	9,214	2.0%	-9.7%
	販売費及び一般管理費	198,327	44.4%	203,600	43.8%	2.7%
	営業利益	16,675	3.7%	20,000	4.3%	19.9%
	経常利益	17,029	3.8%	19,800	4.3%	16.3%
	特別損益	△ 3,634	-	△ 300	-	-
	当期純利益	7,011	1.6%	12,800	2.8%	82.5%

	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 予測(旧基準)		増減率	
		構成比		構成比		
単 独	売上高	352,732	100.0%	362,300	100.0%	2.7%
	売上総利益	169,621	48.1%	174,000	48.0%	2.6%
	営業利益	15,759	4.5%	17,000	4.7%	7.9%
	経常利益	17,565	5.0%	17,600	4.9%	0.2%

(単位:百万円)

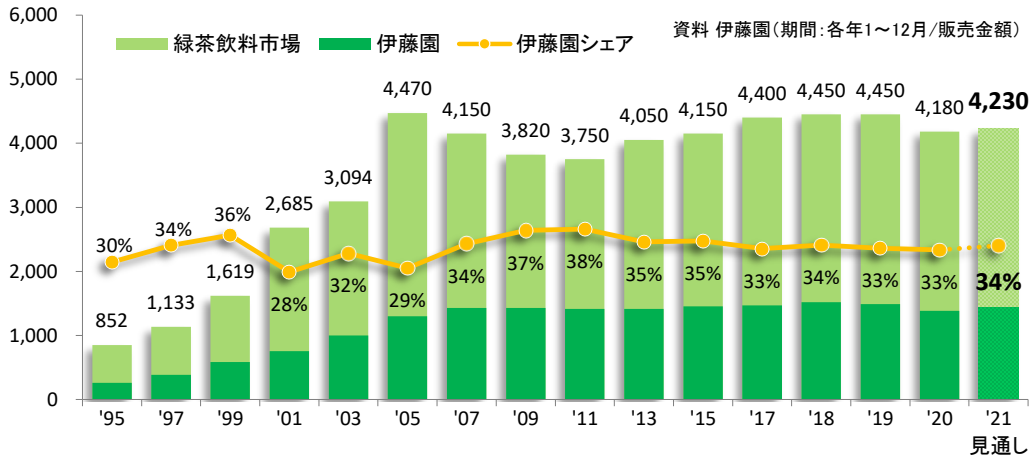
	2021年4月期 実績(旧基準)		2022年4月期 予測(旧基準)		増減率
グ ル ー プ 会 社	上段:売上高				
	下段:営業利益				
	国内グループ	91,732	98,918	7.8%	
		13	2,501	-	
	タリーズ コーヒー	26,215	31,500	20.2%	
		△ 1,374	1,000	-	
	チチャス	13,897	13,610	-2.1%	
		702	680	-3.2%	
	海外グループ	35,355	37,484	6.0%	
		1,864	1,895	1.7%	
		30,068	32,045	6.6%	
	米国事業	717	734	2.4%	
		283,135千ドル	296,716千ドル	4.8%	
		6,758千ドル	6,799千ドル	0.6%	
	その他 海外事業	5,286	5,439	2.9%	
	1,146	1,161	1.2%		
連結消去	△ 33,538	△ 34,302	-		
	△ 962	△ 1,396	-		

為替レート(米ドル) 106.20 108.00 (期中平均)

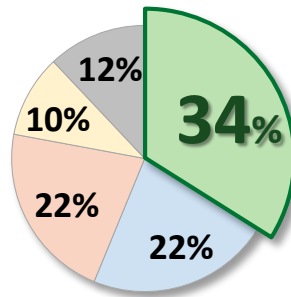
マーケティング・事業戦略

緑茶飲料市場の動向

(市場/億円)



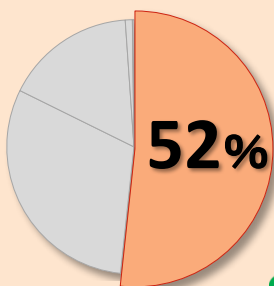
2021年 緑茶飲料の販売金額シェア



伊藤園

資料 伊藤園(2021年1月~12月計 見通し)

秋冬期のホット緑茶飲料市場



伊藤園

※イメージSRI+(期間: 2020年9月~2021年8月/金額ベース)



お客様の生活シーンのニーズに応える独自の製品開発

電子レンジ対応「お〜いお茶」



レンジ加温に対応した
「100%リサイクルPETボトル」



ホットに適した
「お〜いお茶専用茶葉」



注 ホット対応のペットボトルは製品により、構造が異なります

“おいしさで選ばれて” 売上No.1

(※1)

(※2)

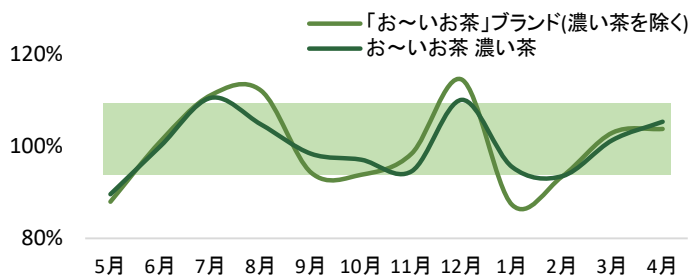
お〜いお茶 濃い茶

機能性表示食品としてリニューアル後、26カ月連続で前年増(※)

(※)期間:2019年9月~2021年10月/販売数量

季節や天候に影響されず年間を通じて安定的に成長

季節・天候による販売動向変動率



(※)伊藤園 販売数量に対する単月毎の販売数量変動率/2019年11月~2021年10月の平均

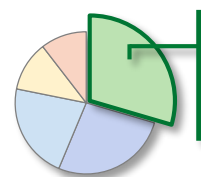
伊藤園の研究に基づく機能性関与成分

緑茶由来のガレート型カテキン



主要飲料メーカー5社 研究・技術開発の状況

○「特定保健用食品・機能性表示食品」合計件数(※)



伊藤園 No.1 (計 96件)

そのうち、関与成分「カテキン」計 35件

2021年11月11日時点 参照元:消費者庁
(※)特定保健用食品:許可件数、機能性表示食品:届出件数

機能性表示食品(飲料)

お〜いお茶 濃い茶

売上 No.1

(※)インテージSRI+(期間:2020年11月~2021年10月/販売金額)

飲用シーンに合わせた製品ラインアップ

屋外・屋内の飲用シーンに対応



パーソナルサイズ

ホームサイズ

電子レンジ対応



いつでもどこでも手軽にすぐ溶ける
リーフ(インスタント)製品



さらさら

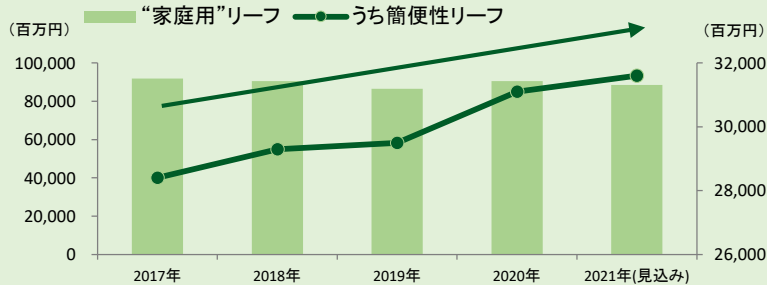
“家庭用”リーフ市場と当社の販売動向

“家庭用”リーフ市場の推移



ティーバッグなど簡便性リーフ市場
2021年(見込み)

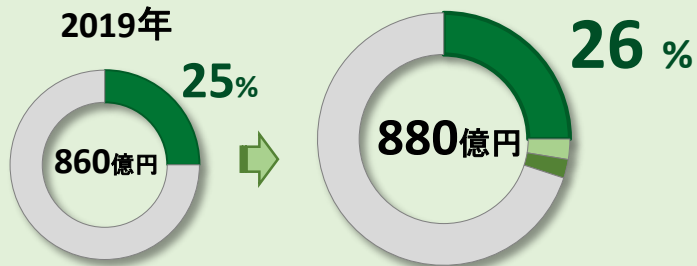
2017年比 + 11%



※資料 伊藤園(期間: 各年1月~12月/販売金額)

“家庭用”リーフ市場とシェア

2021年(見込み)



伊藤園 No.1

※資料 伊藤園(期間: 各年1月~12月/販売金額)

伊藤園

簡便性リーフ製品の販売動向
2021年(見込み)

2017年比 + 15%



機能性表示食品のティーバッグ製品 新発売

日本初(※)“BMIが高めの方の体脂肪を減らす”

お〜いお茶 プレミアムティーバッグ
一番摘み緑茶

機能性関与成分: ガレート型カテキン

9月27日発売



(※)機能性関与成分ガレート型カテキンによる「体脂肪を減らす」機能性表示食品、緑茶ティーバッグ製品の категорияとして日本初(2021年伊藤園調べ)

おうちで自分だけの「お〜いお茶」を味わう体験企画 「#茶畑エクスプレス」

専用茶園から“摘みたて”の茶葉を、最短時間で加工・移送・抽出し、“淹れたて”の味をお客様に届ける新キャンペーン



伊藤園

伊藤園が考える理想的な農業

課題を支援・解決できる技術の開発と複合経営を提案。
関係者と協働し、生産力向上と持続性を両立する。



国内農業支援の取組み

共同開発製品の発売

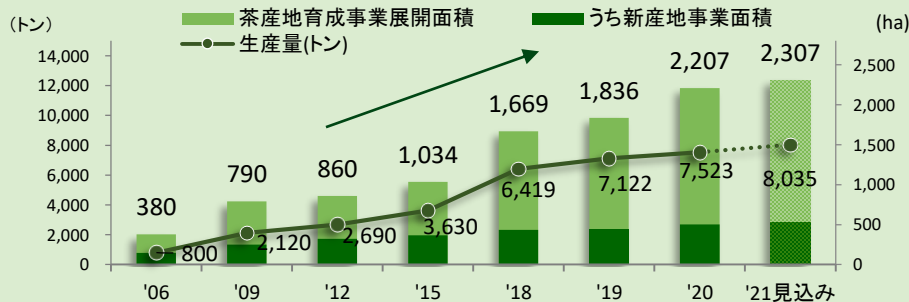
1976年～
伊藤園独自の持続可能な農業モデル

茶産地育成事業

45年間、日本農業の課題解決と地域農業の活性化、需要増加が見込まれる高品質な原料の安定調達の両立を目指して、持続可能な農業を推進。



写真：大分県杵築地区 1カ所で約50haの茶園を造成



※伊藤園 茶産地育成事業：5～4月

国産農作物のおいしさや質の高さをより多くの方に広めていきたいというJA全農の想いに共感し、共同開発製品を発売。製品を通じて国内農業産地を応援していく。



大分県 完熟かぼす



宮崎県 日向夏

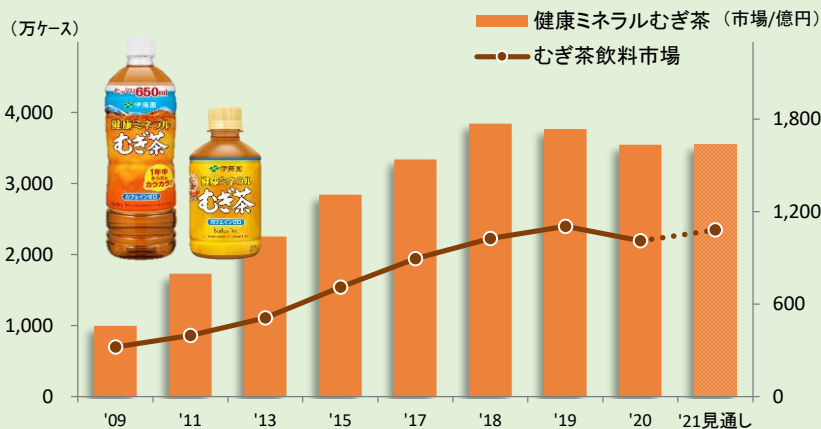


日本の農業・農畜産物を未来に繋ぐJA全農の「ニッポンエールプロジェクト」の飲料製品として、今後も製品開発を推進

むぎ茶飲料

健康ミネラルむぎ茶

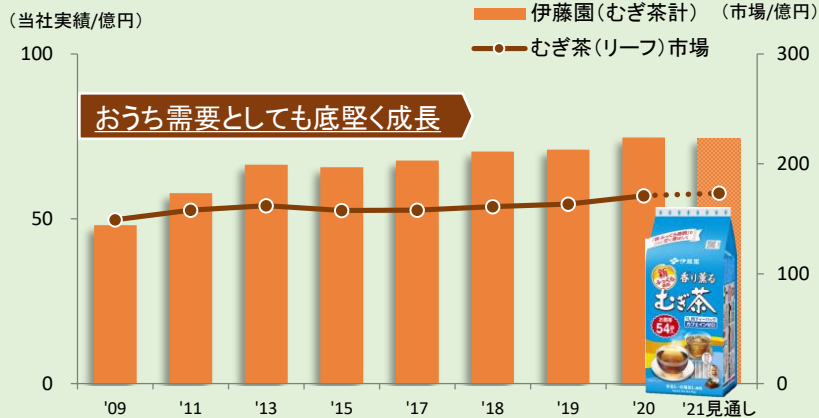
○むぎ茶飲料市場の状況



資料 伊藤園 (市場: 各年1~12月/販売金額 伊藤園: 5~4月/販売数量)

むぎ茶ティーバッグ

○むぎ茶市場の状況



資料 伊藤園 (市場: 各年1~12月 伊藤園: 5~4月/販売金額)

幅広い層に支持される、伊藤園のむぎ茶

1. 健康

乾燥が気になる秋冬こそ
水分&ミネラル補給



2. おいしさへのこだわり

やかん品質の
甘く香ばしい味わい



原料 焙煎 抽出

3. 環境に配慮した取り組み

ラベルレス製品の発売

プラスチック使用量と
ラベルをはがす手間を削減



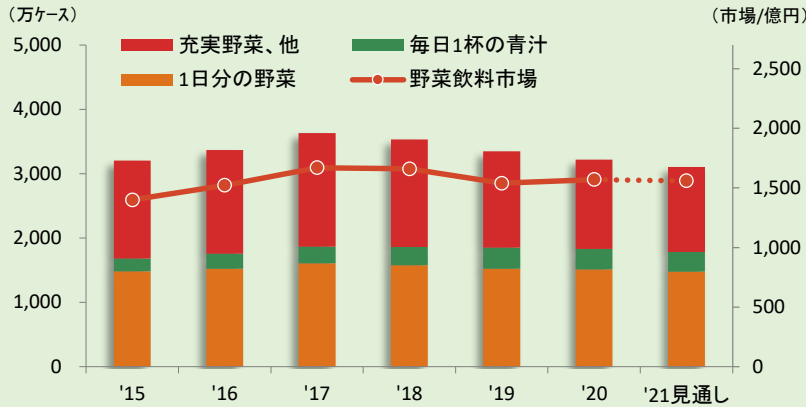
緩衝材 (給湯器用)

むぎ茶殻リサイクルシステム

プラスチック製緩衝材の代替となる
軽量・高強度の緩衝材を開発

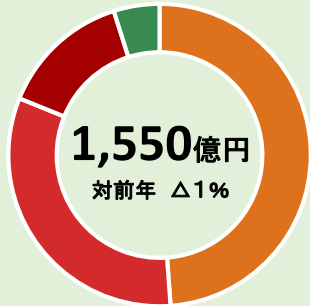
野菜飲料

○野菜飲料の販売状況



資料 伊藤園 (市場: 各年1~12月/販売金額 伊藤園: 5~4月/販売数量)

2021年(見通し) 野菜飲料市場の状況



果汁ミックス	対前年 + 1%
野菜100%	対前年 Δ2%
トマト100%	対前年 Δ10%
青汁	対前年 + 6%

資料 伊藤園

健康価値と環境配慮など新しい価値を提案

1. 健康(栄養・機能性)に配慮した商品の拡充



〈機能性表示食品〉

グアー豆由来のグアーガム分解物(食物繊維)の働きにより
腸内環境を良好にする

「充実野菜 青汁ミックス」

トマト由来のリコピンの働きにより
紫外線刺激から肌を保護するのを助ける

「充実野菜 トマトミックス」

9月13日発売
200ml紙パック/117円(税込)

2. 環境に配慮した容器を採用

野菜飲料の大型ペットボトルで業界初
環境に配慮したECOボトル

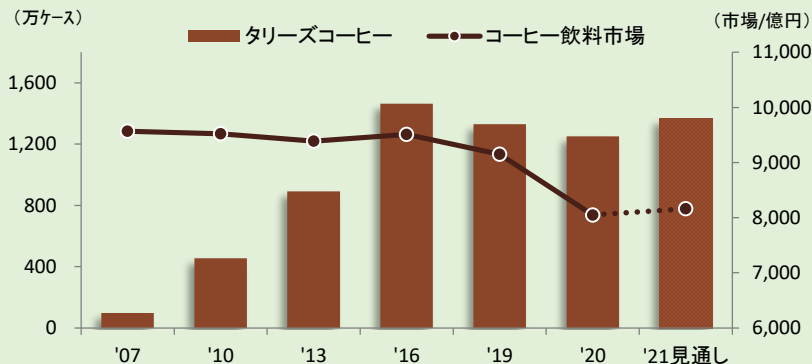
2014年3月以降採用拡大
アルミレスECO容器



ECOパック 牛乳パックと同じようにリサイクルできます。

コーヒー飲料

○コーヒー飲料市場の状況

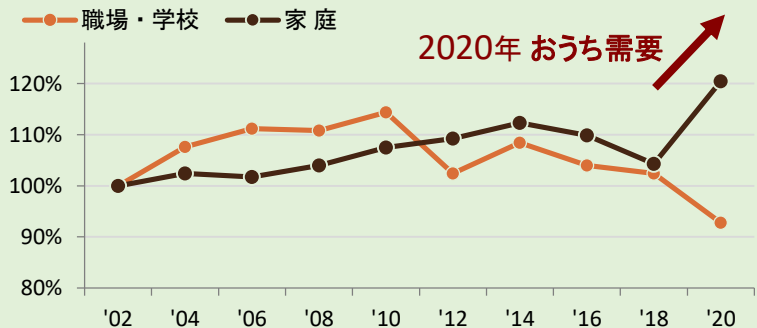


資料 伊藤園(市場:各年1~12月/販売金額 伊藤園:5~4月/販売数量)

家庭用コーヒー

○コーヒー飲用者の飲用シーン別1人当たり杯数成長推移

※2002年を100とした場合の成長推移



“ゆっくり時間をたのしむ” 需要拡大

資料 全日本コーヒー協会『コーヒーの需要動向に関する基本調査』

ショップブランドとのシナジーで ボトル缶「タリーズコーヒー」シリーズ好調



無糖LATTE
も好調

ボトル缶ブラックコーヒー No.1

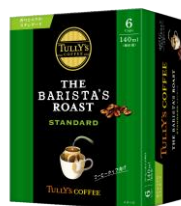
対前年 +32%

※インテージSRI+(コーヒーボトル缶ブラック市場/期間: 2020年1月~12月/販売金額)

※2021年5~10月計/販売数量

家庭用コーヒーシリーズのラインアップ拡充

THE BARISTA'S ROAST



2021年6月~
ドリップシリーズ

New



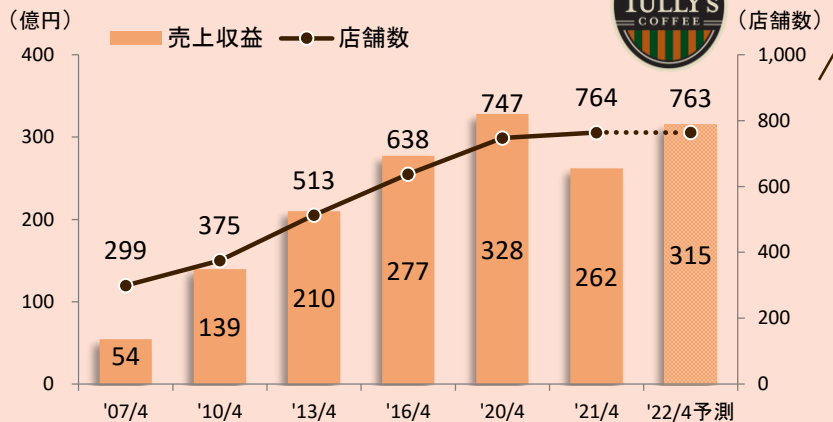
2021年10月~
使い切りパック



おうち TULLY'S

タリーズコーヒージャパンの状況

売上収益(※)及び展開店舗数推移



※2022/4月期より収益認識基準を適用。2021/4月期以前は売上高にて表記

2022年4月期 上半期の販売動向 (2021年5月~2021年10月)

代表的なロケーションの販売状況

都心・交通機関 売上高 +18%

郊外 売上高 +5%

※出店月を除いた15ヵ月以上営業している店舗における売上高前年比

参考: ロケーション別売上高構成比



コーヒー豆の販売状況

対前年 +16%

9/17 TULLY'S COFFEE & TEA
ららぽーと立川立飛店



2022年4月期の施策

1 物販の強化・生産性の向上



- 簡便性商品など物販の強化
- デリバリーサービスの導入
- システム導入・勤務シフトの見直し

2 環境対応



- ホット・コールド兼用の紙カップ採用 (一部地域)

> プラスチック使用量 100トン以上削減見通し

※紙カップ提供コールドドリンク: アイスコーヒー、水出しアイスティー(全サイズ対応)

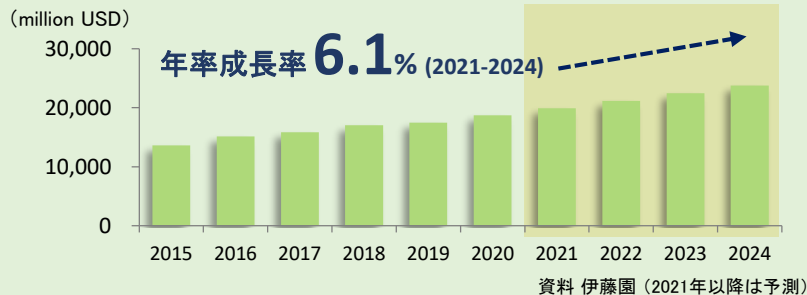
3 コラボレーション企画



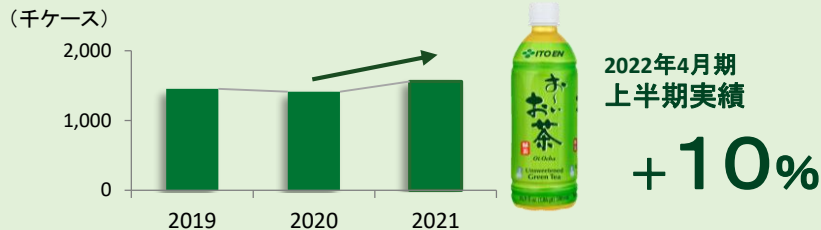
- ハリー・ポッター映画公開20周年記念
コラボレーション企画(～12/28)

世界の状況

世界のヘルス&ウェルネス茶系飲料市場

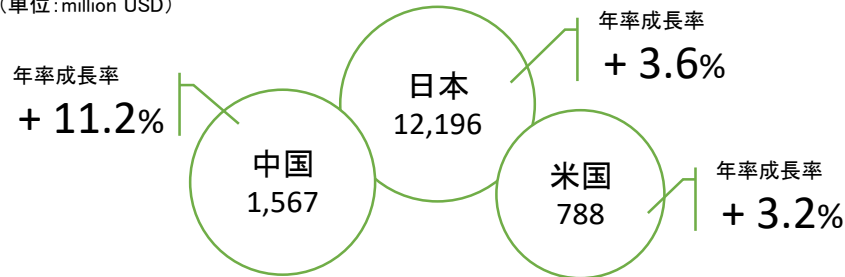


海外における「お~いお茶」の販売動向



世界のヘルス&ウェルネス茶系飲料市場の規模

(単位: million USD)



※市場規模:2020年/年率成長率:2021年-2024年 資料:伊藤園

世界のティーカンパニーとして伝える価値

「Japanese Tea (日本茶)」

- 日本育ち
- 日本の加工技術

× 伊藤園 =

香り、旨み、濃厚な
味わい、鮮やかな
水色が特長の
高品質な日本茶

市場規模が拡大する中国での販売戦略



伊藤園上海 2021年度上半期

EC売上比率 **30%**

「お~いお茶」の代表的な飲用者:

健康意識の高い30~40代女性

課題: ブランド認知度

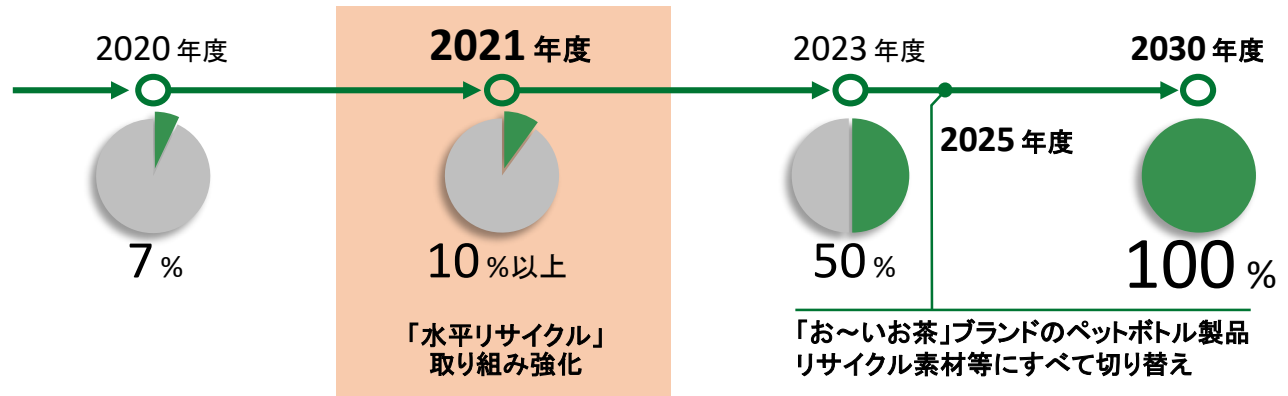
> SNSと試飲(サンプリング)を連動させた
広告・販促・体験活動の強化

2022年4月1日～

使用済みペットボトルの回収から製品販売までのフローを域内で完結する資源循環の実施に向けて
兵庫県姫路市をはじめ使用済みペットボトルの域内資源循環型リサイクルを推進



「100%リサイクルペットボトル」切り替え達成に向けたロードマップ



(※)生物由来素材を含む

消費者



行政



再資源化



伊藤園



消費、分別排出した使用済みペットボトルを新しいペットボトルへと水平リサイクル(ボトルtoボトル)を行う
域内資源循環の仕組みの構築を通じて、「100%リサイクルペットボトル」の切り替え達成に向けて取組みを強化

世界中のお客様の“健康”に貢献する健康創造企業として、一人ひとりの豊かな生活を支える企業グループ「伊藤園」へ。

“お茶”をはじめ「健康」に資する製品の提案

高付加価値モデル

－ カテキンやテアニンなど“お茶”が持つ価値を製品を通じて訴求



“認知機能(注意力・判断力)の精度を高める”機能性表示食品

お〜お茶 濃お抹茶

11月29日発売/165ml缶

届出表示:
本品には、テアニン・茶カテキンが含まれます。テアニン・茶カテキンには、年齢とともに低下する認知機能のうち、注意力(注意を継続させて、一つの行動を続ける力)や判断力(判断の正確さや速さ、変化する状況に応じて適切に処理する力)の精度を高める機能があることが報告されています。

地球環境にやさしい製品づくり

伊藤園の考える「ラベルレス」のかたち



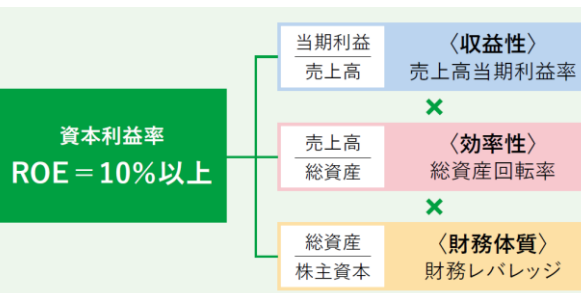
お〜お茶

- ✓ 茶産地育成事業で生産した茶葉
- ✓ NSシステムによる充填
- ✓ 100%リサイクルペットボトル
- ✓ 茶殻をリサイクルした段ボール

ケース販売専用 12月20日発売

健康創造企業を支えるROE経営の強化

- ・収益性、資産効率の向上
- ・EPSの向上
- ・安定的な株主還元



- ・ブランドの強化と国内収益基盤の強化
- ・ブロック生産物流の徹底、需給管理の徹底
- ・ファブレス生産による高い総資産回転率
- ・健全な財務体質維持と安定配当

参考資料

参考：伊藤園（単独）の状況

伊藤園単独 カテゴリ別販売実績

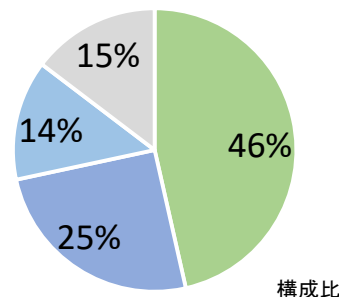
(単位：百万円)

上半期(5月-10月)	2021年4月期			2022年4月期		
	実績	構成比	増減率	実績	構成比	増減率
売上高	189,522	100.0%	-9.3%	190,614	100.0%	0.6%
茶葉(リーフ)	16,683	8.8%	3.0%	16,936	8.9%	1.5%
飲料(ドリンク)	171,619	90.6%	-10.2%	172,053	90.3%	0.3%
他	1,219	0.6%	-25.6%	1,624	0.9%	33.2%

(単位：千ケース)

上半期(5月-10月) 飲料販売数量	2021年4月期			2022年4月期		
	実績	構成比	増減率	実績	構成比	増減率
飲料(ドリンク)	119,981	100.0%	-9.4%	118,459	100.0%	-1.3%
茶系飲料計	84,480	70.4%	-9.7%	84,059	71.0%	-0.5%
日本茶・健康茶	76,693	63.9%	-8.6%	78,278	66.1%	2.1%
中国茶	6,509	5.4%	-15.1%	4,892	4.1%	-24.8%
紅茶	1,277	1.1%	-35.0%	888	0.8%	-30.5%
野菜飲料	17,619	14.7%	-1.0%	15,906	13.4%	-9.7%
コーヒー飲料	7,401	6.2%	-11.3%	8,052	6.8%	8.8%
ミネラルウォーター	3,573	3.0%	-20.8%	3,594	3.0%	0.6%
炭酸飲料	2,293	1.9%	-15.4%	2,321	2.0%	1.2%
果実飲料	2,104	1.8%	-16.2%	2,287	1.9%	8.7%
その他飲料	2,509	2.1%	-16.1%	2,238	1.9%	-10.8%

伊藤園単独 チャネル別構成比

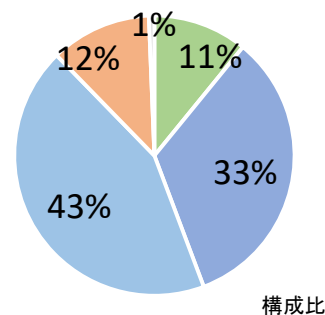


2022年4月期 上半期(5月-10月)

	構成比対前年	売上増減率
スーパー	△ 1 pt	- 1 %
C V S	△ 1 pt	- 1 %
自動販売機	+ 0 pt	+ 1 %
その他	+ 1 pt	+ 8 %

金額ベース

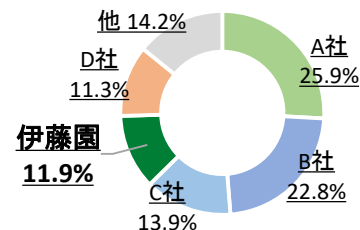
伊藤園単独 飲料容器別実績



2022年4月期 上半期(5月-10月)

	実績	構成比対前年	売上増減率
飲料販売数量	11,845	-	- 1 %
缶	1,290	+ 0 pt	+ 2 %
大型PET	3,953	△ 0 pt	- 2 %
小型PET	5,145	+ 0 pt	- 0 %
紙パック	1,381	△ 0 pt	- 5 %
その他	75	△ 0 pt	- 18 %

単位：万ケース



参考：2021年1-9月 飲料業界シェア

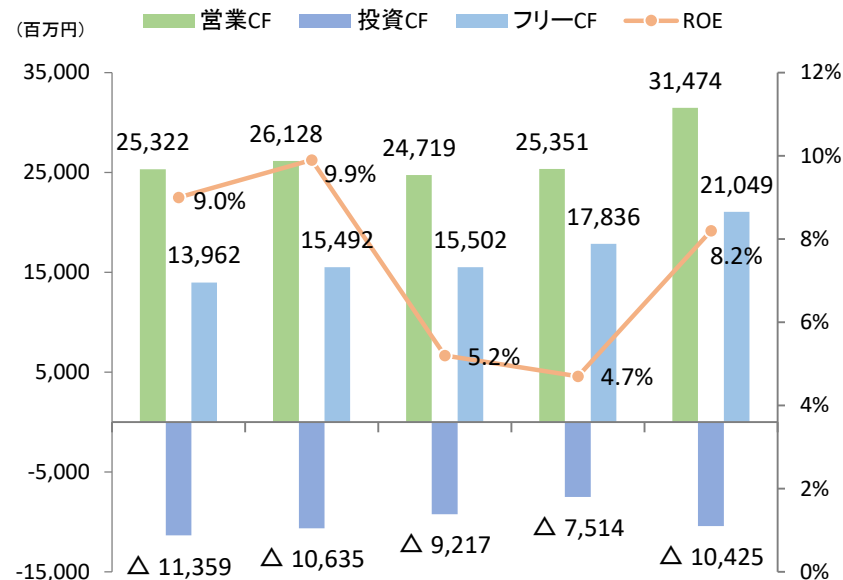
※資料：伊藤園 / 数量ベース

連結貸借対照表（前年同月比較）

（単位：百万円）

	2020年10月末	2021年10月末	増減額
流動資産	189,478	227,466	37,988
現金及び預金	79,074	111,952	32,878
売上債権・棚卸資産	98,501	103,118	4,617
有形固定資産	81,166	76,753	△ 4,413
土地	22,138	22,284	146
リース資産	13,761	10,898	△ 2,863
その他	45,267	43,571	△ 1,696
無形固定資産	10,961	8,114	△ 2,847
のれん	7,236	4,104	△ 3,132
投資その他資産	22,294	23,127	833
資産合計	303,900	335,462	31,562
流動負債	73,194	90,529	17,335
買掛金等	26,234	25,249	△ 985
短期借入金	6,732	24,604	17,872
リース債務	3,443	2,618	△ 825
未払法人税等	3,458	4,914	1,456
固定負債	78,986	86,324	7,338
社債	10,000	10,000	-
長期借入金	48,206	55,603	7,397
リース債務	5,435	4,745	△ 690
負債合計	152,181	176,853	24,672
純資産合計	151,719	158,609	6,890

連結キャッシュ・フローの推移



（単位：百万円）

	'18/4	'19/4	'20/4	'21/4	'22/4 予測
設備投資額	11,062	10,006	9,990	7,199	10,437
減価償却費	6,180	6,735	7,022	7,255	8,439
リース償却費	7,042	6,675	6,081	5,171	3,391
リース債務（返済）	△ 8,616	△ 6,514	△ 4,679	△ 3,691	△ 2,832

格付の状況	A+	自己資本比率	'20/10	49.5%
社債発行登録（普通社債）	400億円		'21/10	46.9%

参考：2022年4月期 通期予測

2022年4月期 通期予測 旧基準ベースとの影響額差

通期(2021年5月～2022年4月)

	2022年4月期 予測(旧基準)		2022年4月期 予測		影響額	
		構成比		構成比		
連 結	売上高	464,400	100.0%	403,100	100.0%	△61,300
	売上総利益	223,600	48.1%	162,300	40.3%	△61,300
	販売手数料	76,626	16.5%	269	0.1%	△76,357
	広告宣伝費	10,579	2.3%	10,579	2.6%	-
	運送費	13,601	2.9%	13,601	3.4%	-
	減価償却費	9,214	2.0%	9,214	2.3%	-
	販売費及び一般管理費	203,600	43.8%	142,300	35.3%	△61,300
	営業利益	20,000	4.3%	20,000	5.0%	-
	経常利益	19,800	4.3%	19,800	4.9%	-
	特別損益	△ 300	-	△ 300	-	-
当期純利益	12,800	2.8%	12,800	3.2%	-	

	2022年4月期 予測(旧基準)		2022年4月期 予測		影響額	
		構成比		構成比		
単 独	売上高	362,300	100.0%	304,300	100.0%	△58,000
	売上総利益	174,000	48.0%	116,000	38.1%	△58,000
	営業利益	17,000	4.7%	17,000	5.6%	-
	経常利益	17,600	4.9%	17,600	5.8%	-

(単位:百万円)

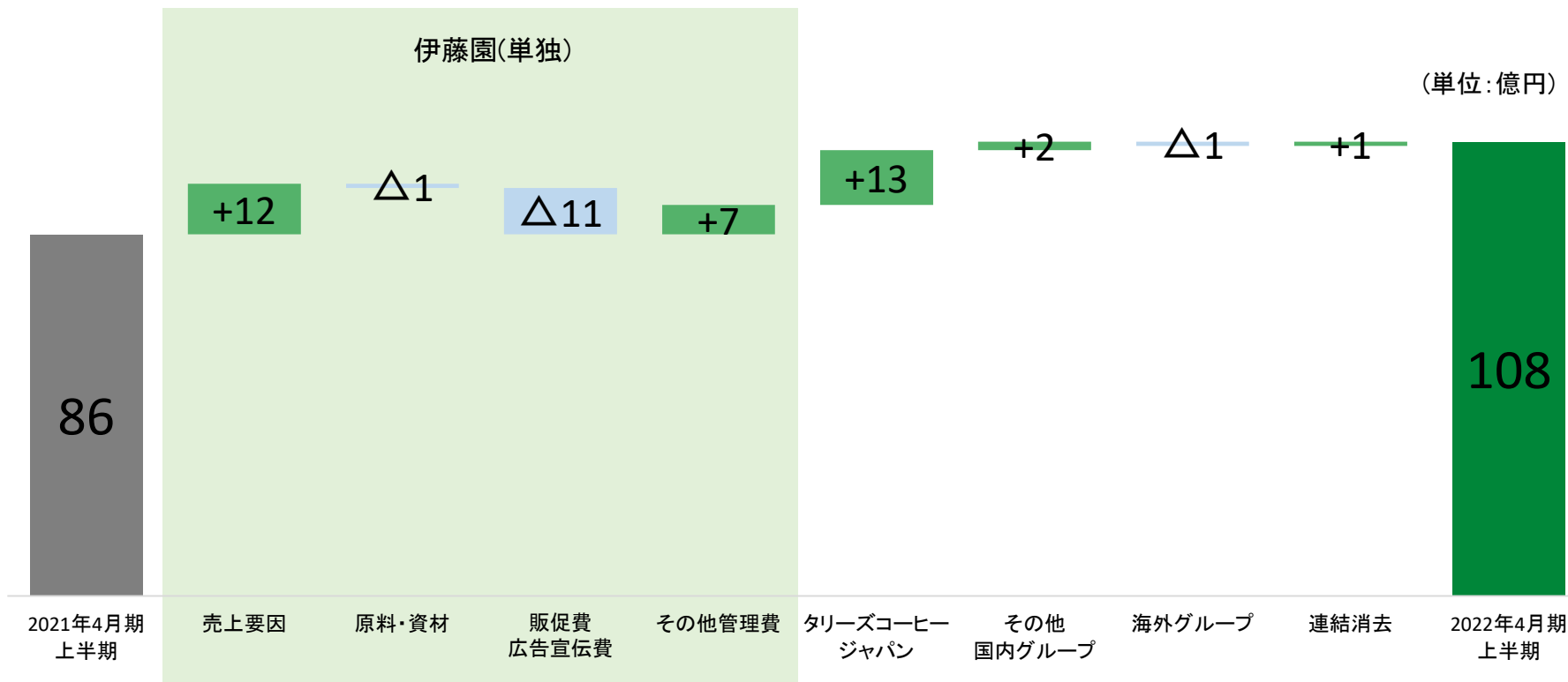
	上段:売上高 下段:営業利益	2022年4月期 予測(旧基準)	2022年4月期 予測	影響額
	グ ル ー プ 会 社	国内グループ	98,918	95,582
		2,501	2,501	-
タリーズ コーヒー		31,500	31,500	-
		1,000	1,000	-
チチヤス		13,610	11,931	△1,679
		680	680	-
海外グループ		37,484	37,484	-
		1,895	1,895	-
米国事業		32,045	32,045	-
		734	734	-
		296,716千ドル	296,716千ドル	-
		6,799千ドル	6,799千ドル	-
その他 海外事業		5,439	5,439	-
		1,161	1,161	-
連結消去	△ 34,302	△ 34,266	36	
	△ 1,396	△ 1,396	-	

為替レート(米ドル) 106.20 108.00 (期中平均)

参考：連結 営業利益増減要因

2022年4月期 上半期実績(連結) 営業利益増減の主な要因

伊藤園(単独)及びタリーズコーヒージャパンの売上回復に伴う利益増加



(※)収益認識基準適用前



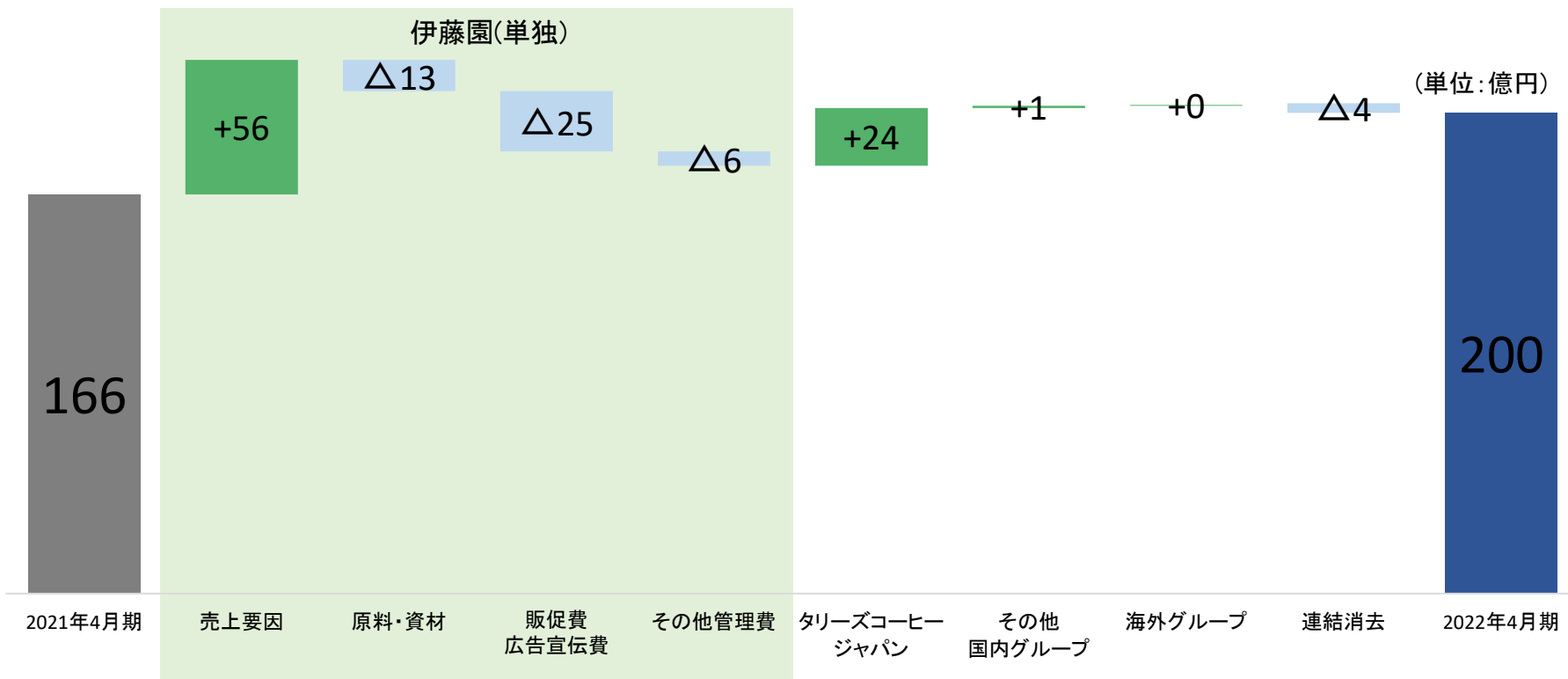
伊藤園(単独)の増減要因補足

- ・売上増加による影響 +5
- ・容器構成及び製品構成等の変化 +7
- ・原料等の高騰による影響 $\Delta 1$
- ・売上増加の影響による販促費増加 $\Delta 11$

参考：連結 営業利益増減要因

2022年4月期 予測(連結)営業利益増減の主な要因

伊藤園(単独)及びタリーズコーヒージャパンの売上回復に伴う利益増加



(※)収益認識基準適用前



伊藤園(単独)の増減要因補足

- ・売上増加による影響 +46
- ・容器構成及び製品構成等の変化 +10
- ・広告宣伝費の増加 △5
- ・売上増加の影響による販促費増加 △20

参考：茶原料の持続的な調達に向けて

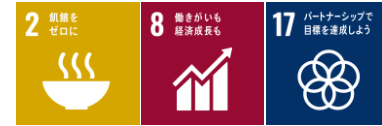
茶農業の動向と当社の取組み

伊藤園独自の持続可能な農業モデル「茶産地育成事業」(1976年～)

主な成果

- 耕作放棄地等を茶園に造成 **500** ha以上(新産地)
- 従業員平均年齢(新産地※1) 約 **45** 歳(国内平均67.8歳※2)
- 10aあたり労働時間(新産地※3) 約 **44** 時間(静岡 約122時間※4)
- GAP取得率※5 **100** %

※1 各新産地の正社員平均年齢を加重平均したもの ※2 国内農業従事者(出典：農林水産省) ※3 新産地の一例 ※4 農林水産省「茶をゆめる情報」 ※5 食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられるGAP認証制度には、世界基準である「グローバルGAP」のほか、日本GAP協会が展開する「JGAP」「ASIAGAP」などがあり、ここではこれら3つの認証のうちいずれかを取得した農場を指します。



伊藤園が取組む茶農業の技術開発と普及に向けたロードマップ

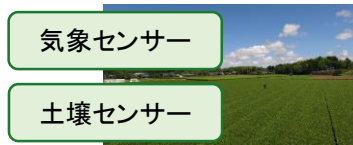


▶ 技術確立に向けた現在の取組み

有機 茶殻の肥料化
 > 茶殻高含有堆肥の製造
 飲料工場と契約産地のマッチング



IT AIによる管理作業最適化
 > 気象・土壌センサーなどにより
 茶の生育環境を把握



有機 蒸気防除機の実用化
 > 蒸気による防除、除草



IT 摘採時期の判断
 > リモートセンシングやAI画像解析



▶ 複合農業に向けて

IT 摘採や運搬、計量の自動化。成分評価の自動化
 > 摘採機や運搬のIT化、生葉の自動計量などによる
 省力化と人員不足の解消

複合経営 茶の閑散期に他の農作物生産
 > 通年雇用や事業経営の安定化



茶の栽培 + 大麦若葉などの栽培

複合経営 荒茶工場の汎用化
 > 冬期の収益、償却の短縮



茶の加工 + 野菜の乾燥など

持続可能な農業の推進に貢献していく



伊藤園

自然が好きです。

当資料は、あくまで伊藤園をより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。